

千歳市場の今後の方向性

千歳市公設地方卸売市場（以下、「千歳市場」という。）の今後の方向性について、その役割と将来方向、施策のあり方について幅広い観点から総合的に検討を行うため、基礎的な調査に基づき市場運営委員会及び庁内検討会議で議論を行ってきたが、これまでの検討結果を踏まえ、「千歳市場の今後の方向性」を決定したので報告する。

1. 「千歳市卸売市場運営委員会」の検討結果における方向性について

千歳市場の廃止による影響を個別具体的に検証し、千歳市場の必要性と存在意義を踏まえ、千歳市場を存続するという方向性を示す。

2. 「千歳市場のあり方に関する庁内検討会議」の検討結果における方向性について

千歳市場は、市民生活に直結した生鮮食料品の供給ルートとして機能しており、取扱高の増加が期待できることから、売上高向上策に取り組んで活性化を図るとともに、その結果を踏まえ、改めて千歳市場の評価を行うという方向性を示す。

【庁内検討会議の検討結果における主な意見】

運営委員会意見報告書の項目	検 討 結 果
千歳市場の存続について	千歳市場は、JA道央をはじめとする団体・個人生産者の出荷先となり、また大型スーパーをはじめとする96事業者の買受人による市民への生鮮食料品供給ルートとして機能している。
	市場の業務には、市内の多くの事業者が関与しており、市内経済の振興や雇用の確保に貢献している。
売上高向上策（活性化策）について	売上高の向上効果が見込める新規事業展開や新規買受人の開拓、販路の拡大について、市場関係者で具体策を検討する必要がある。
	売上高向上策の検討・実施に当たっては、市場内に協議・研究の場を設置し、戦略的・効果的な取組が可能となるような体制を構築すべきである。
市場運営手法及び施設整備のあり方について	売上高向上策取組期間については、現状の体制を維持し運営を継続する。
	市場における代金決済機能を確保するため、市場関係者が代金精算会社の現状と課題等を認識し、そのあり方について協議を継続する必要がある。
	施設整備については、市場機能の維持及び安全面の確保の必要性から、市が必要な整備を実施すべきであるが、大規模修繕や新規施設の整備については、売上高向上策の成果を踏まえ実施を検討すべきである。
千歳市場の今後の方向性について	千歳市場の活性化を図り、取扱高の増加を図るため、開設者と市場関係者が一体となり目標を掲げ計画的に売上高向上策に取り組む必要がある。 なお、売上高向上策の取組結果が千歳市場の評価の重要な要素であることを認識し、危機感をもって取組むことが求められる。

3. 千歳市場の今後の方向性についての考え方

「千歳市卸売市場運営委員会」及び「千歳市場のあり方に関する庁内検討会議」の検討結果を踏まえ、千歳市場の今後の方向性について次のとおりとする。

- (1) 市民に安全で安心な生鮮食料品を安定的に供給する公設卸売市場の本来的役割を果たすため、市場活性化に向け開設者・市場関係者が一体となって売上高向上策に積極的に取り組むこととする。
- (2) 平成 25 年度から売上高向上策を実施するとともに、平成 28 年度には取組結果を検証し、存廃を含む千歳市場の評価を行う。

4. 売上高向上策取組手順

項目	内 容
取組期間	平成 25 年度～平成 27 年度（3 年間）
取組方法	市場内に開設者及び市場関係者等で組織する「(仮称) 営業戦略会議」を設置し、取組目標（値）を設定して売上高向上策に取り組む。
取組目標	<ul style="list-style-type: none">・市場の取扱量の増加 卸売市場としての機能を維持するため、現状の取扱量の増加を目指す。・卸売業者・仲卸業者の従業員 1 人当たりの取扱金額の増加 千歳市場において、安定した収益を上げるため、国の卸売市場整備基本方針に掲げる取扱金額の水準以上の取扱高を目指す。・青果物の地域内供給率の向上 市場機能を維持するため、現状の地域内供給率の向上を目指す。
取組結果の検証・評価	平成 28 年度に取組結果を検証し、存廃を含む千歳市場の評価を行う。

5. 今後の施設整備のあり方について

取組期間中は、卸売業務に重大な支障を及ぼす緊急時の対応を除き、既定予算の範囲内で市場機能の維持及び安全面の確保に必要な最小限度の修繕・改修を行う。

6. 代金決済機能（精算会社方式）のあり方について

千歳市場における代金決済機能について、その現状と課題、他の地方卸売市場の状況を踏まえたうえで市場関係者による協議を行う。